

# 「こおりやまの米」通信



編集:郡山市  
JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)  
NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)  
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)  
発行:郡山市農作物生産対策協議会  
(郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)

## Vol.5 水管理・病害・カメムシ対策

こおりやまの米通信

検索

\*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります

### 1 出穂前後の水管理

生育の目安を右表に示しました。田植日の違いや実際の天候により変動する可能性があるため、ほ場をよく観察し、適期に栽培管理を行いましょう。最新の生育状況は市のウェブサイト(<https://www.city.koriyama.fukushima.jp/242000/nogyo/kometsushin.html>)に掲載されています。市・JAにもお問い合わせください。

#### 【気温に応じた水管理】

中干し後、出穂期までは間断かんがいとします。出穂期には湛水(花水)し、その後は間断かんがいにします。

【管内主要品種の生育の目安】(JA福島さくら郡山地区本部栽培暦より)

品種	幼穂形成始期	出穂期	乳熟期	穂いもち防除時期
ひとめぼれ	7月11日頃	8月5日頃	8月12～15日頃	7月21～26日頃
あきたこまち(湖南)	7月15日頃	8月8日頃	8月15～18日頃	7月24～29日頃
天のつぶ	7月上～中旬	8月上～中旬	8月中～下旬	7月下旬～8月上旬
コシヒカリ	7月17日頃	8月11日頃	8月18～21日頃	7月27日～8月1日頃

※出穂期:全穂数の約半分が出穂した日

※幼穂形成始期:主茎3本の80%以上の幼穂が1mmに達した日

※乳熟期:出穂期の7日～10日後、籾を指で押しつぶすと乳液状の時期

※穂いもちの防除時期は出穂期の15～10日前 いもち病など病害対策(2)参照

【低温時】 出穂の15～7日前の低温時には、すみやかに幼穂の高さまでの深水管理とし、幼穂を保護しましょう。

【高温時】 出穂後の高温時には昼間深水または掛け流し、夜間落水に努めましょう。

### 2 いもち病など病害対策

ほ場をよく観察し、常発ほ場では早めに防除をしましょう。

- (1) 早期発見・早期防除につとめ、葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。
- (2) 穂いもちを予防する場合は、コラトップ粒剤5(3～4kg/10a:出穂15～10日前まで)等を散布しましょう。
- (3) 昨年、紋枯病が発生した田んぼではモンガリット粒剤(3～4kg/10a:出穂28～14日前(収穫45日前)まで)等を湛水散布しましょう。
- (4) 昨年、稲こうじ病が発生したほ場にはZボルドー粉剤DL(3～4kg/10a:出穂20～10日前まで)等を散布しましょう。

～いもち病適期防除にBLASTAM(ブラスタム)活用を～

福島県病害虫防除所のホームページでは、葉いもちに感染しやすい日を判定するシステム、BLASTAM(ブラスタム)を公開しています。感染後約1週間で病斑が確認できるので、ほ場を観察し、いもち病の適期防除に活用しましょう。

福島県 ブラスタム

検索

### 熱中症にご注意！！

汗をかいて体の中の塩分が不足すると筋肉がピクピク痙攣(けいれん)したり、こむら返りが起きやすくなります。

水分と同時に塩分を含む飴やタブレット、梅干しを摂取し、失われた塩分も補給しましょう。



### 3 カメムシ類対策

～適期防除で全量1等を目指しましょう！～

#### (1) 1回目の防除

粉剤、液剤等による防除は、乳熟期を基本とします。粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。

#### (2) 追加防除

その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行きましょう。

割れ籾はカメムシによる吸汁を助長します。割れ籾の発生しやすい品種(あきたこまち、天のつぶ)では、出穂20日後頃の追加防除が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましょう。

### 主なカメムシ類の防除剤

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR.ジョーカー 粉剤DL※ <sup>1</sup>	3～4kg/10a	2回以内	収穫 7日前まで
スタークル 粒剤※ <sup>2</sup>	3kg/10a	3回以内	
キラップ フロアブル	1000～2000倍、 60～200L/10a	2回以内	収穫 14日前まで

※<sup>1</sup>蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。  
※<sup>2</sup>スタークル剤は粒剤以外の粉剤、液剤10、顆粒水溶剤は飛散リスクがあり、蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

畦畔雑草の草刈りで幼虫・成虫ともに大幅に密度が低下しますが、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは7月25日（出穂10日前）までに終わらせましょう。

刈り払い機の使用前には、刈刃のヒビや固定を確認しましょう！



### 4 追肥（穂肥）

～出穂25日前の生育状況で判断しましょう～

出穂25日前に生育を確認し、草丈が長く葉色の濃い場合は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。

また、出穂5日前以降の実肥は、玄米タンパク質が高まり食味が低下するので行わないようにしましょう。

幼穂長による出穂前日数の判定方法は右表のとおりです。出穂期は天候により変化しますので幼穂長を確認しましょう。

#### 【施用時期と窒素分量の目安】

- ・コシヒカリ: 出穂18～15日前(1～2kg/10a)
- ・ひとめぼれ: 出穂20日前(2kg/10a)
- ・あきたこまち、天のつぶ: 出穂25日前 (2kg/10a)

※基肥一発肥料を使用した場合は原則として追肥は行いません。

#### 出穂25日前の生育の目安

品種	草丈	葉色 (カラスケール)
ひとめぼれ	60～65cm	3.5～4.0
コシヒカリ	65～70cm	3.0～3.5
あきたこまち	55～60cm	3.5～4.0

#### 出穂までの日数判定方法(コシヒカリ)

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8-15mm	18日	止葉抽出
40-60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

多収性品種で収量を確保するには

多収性品種(ふくひびき)の収量確保には、多肥・密植が基本です。

出穂25日前に穂肥 (2kg/10a)を行い、葉色を観察しながら実肥も行います。

### 平成30年度農薬危害防止運動実施中！

6月10日から9月10日まで、平成30年度農薬危害防止運動期間です。

農薬は施錠して保管し、使用前に、もう一度ラベルを確認しましょう。

周辺住民に配慮した農薬の使用に努めましょう。